

<参考>

1. 除雪機の使用時に気を付けるポイント

○安全機能は無効化は絶対しない。(NG 行動①)

デッドマンクラッチ機構のクラッチレバーを固定するなどの安全機能の無効化をすると、使用者が転倒などした際に除雪機が停止せず、除雪機にひかれたり、巻き込まれたりするおそれがあります。安全機能は無効化せずに正しく使用するようにしましょう。

【参考】

除雪機安全協議会※では、除雪機による事故を防止するため、自主規格である「歩行型ロータリ除雪機の安全規格」を制定しており、

- 2004年4月1日以降に出荷される除雪機には、デッドマンクラッチ機構を標準装備とすること
- 2023年4月1日以降に製造される車両重量が350kg以上の除雪機には、後進時非常停止バーを標準装備とすること

とされています。

本協議会の制定した自主規格に適合した除雪機には SSS (Snowthrowers-Safety-Standard) マークが貼付されています。



○エンジンを掛けたまま離れない。(NG 行動②)

除雪機のエンジンを掛けたままその場を離れると、こどもが近づいて触れるなどし、思わぬ事故につながるおそれがあります。一時的にその場を離れるときでも、必ずエンジンを切ってください。

○人が近くにいる時は使用しない。障害物に衝突しないよう注意する。(NG 行動③)

除雪作業をする際は、周囲に人がいないことを確認しましょう。特に背丈の低いこどもは死角に入りやすいので、十分気を付けてください。また、後進する際は、足下や後方の障害物を事前に確認し、転倒することがないように気を付けてください。

○雪詰まりを取り除く際はエンジンを切り、雪かき棒を使用する。(NG 行動④)

エンジンを掛けたまま雪を取り除く作業を行うと、手を負傷するおそれがあります。雪が詰まった場合は、エンジン及び回転部の停止を確認し、直接手で行わず、必ず備え付けの雪かき棒を使用して取り除いてください。

※ 除雪機安全協議会：<http://www.jfmma.or.jp/jyoankyō.html>

【参考】

除雪機安全協議会 「歩行型ロータリ除雪機の安全規格」では、

- 除雪機には、ブロワの投雪口に詰まった雪を取り除くために雪かき棒を標準装備することとされています。

○屋内や換気の悪い場所ではエンジンを掛けたままにしない。(NG行動⑤)

作動中の除雪機の排気には一酸化炭素が多く含まれています。一酸化炭素は無色・無臭で、発生に気が付きにくく、また非常に毒性の強い気体です。閉め切った屋内で除雪機のエンジンを掛けたままにすると、短時間で一酸化炭素の濃度が高くなり非常に危険です。除雪機は始動／停止も含め風通しの良い屋外で使用しましょう。エンジンを切った状態で、手で押して移動できない大型の除雪機等の場合は、窓などの開口部を開放して十分な換気が取れていることを確認してから、「屋内で始動し速やかに屋外に出る」、「屋内にしまったら速やかにエンジンを切る」などの対策をしてください。

2. 除雪機の事故発生状況

2014年度から2023年度までの10年間にNITEに通知された除雪機の使用による死傷事故38件について、被害状況別の内訳等を以下に示します。

(1)被害状況別・原因区分別の内訳

図1に「被害状況別の事故発生件数」を、図2に「原因区分別の事故発生件数」を示します。除雪機の事故は被害状況別では死亡事故が25件と最も多くなっています(図1)。また、事故原因のうち約8割にあたる32件が安全機能の無効化や周囲の確認不足などの誤使用・不注意であり(図2)、その内訳は死亡事故21件、重傷事故10件、軽傷事故1件となっています。

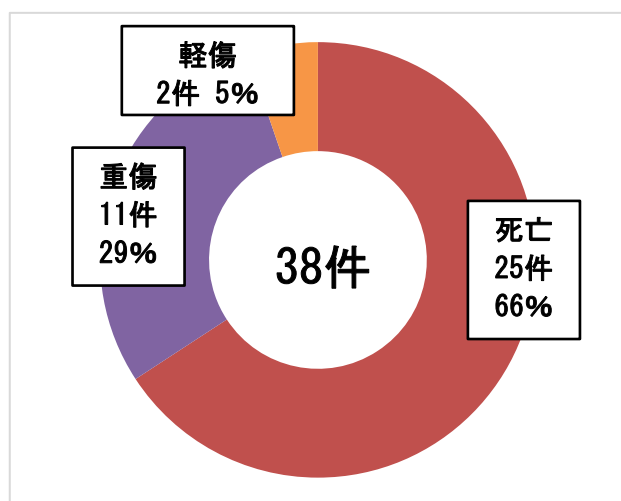


図1:被害状況別の事故発生件数

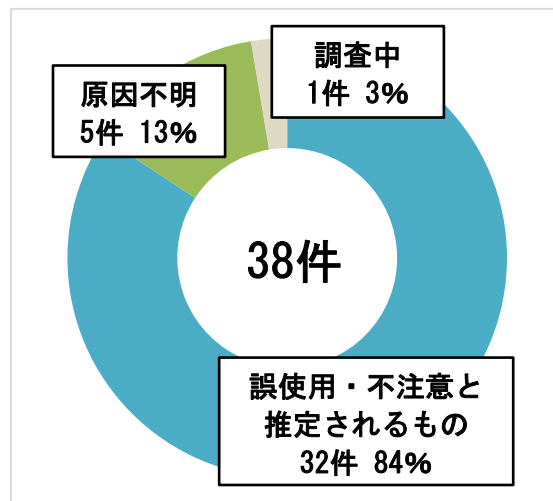


図2:原因区分別の事故発生件数

(2) 事件事象別の内訳

表1に「事件事象別の事故発生件数」を示します。死亡事故は「除雪機の下敷きになった」、「除雪機に巻き込まれた」の2つの事象で多く発生し、重傷事故は「エンジンを掛けたままの除雪機内部に手を入れた」事象で多く発生しています。

また、38件中26件(死亡事故18件、重傷事故8件)が安全機能が無効化することや、使わなかったことにより事故に至っています。

事件事象	死亡		重傷		軽症		総計
	安全機能無効化など	それ以外	安全機能無効化など	それ以外	安全機能無効化など	それ以外	
除雪機の下敷きになった	12	3	0	0	0	0	15
除雪機に巻き込まれた	6	0	0	1	0	0	7
壁などに挟まれた	0	2	0	0	0	1	3
一酸化炭素中毒になった	0	2	0	0	0	0	2
エンジンを掛けたままの除雪機内部に手を入れて負傷した	0	0	8	2	0	0	10
除雪機を焼損する火災が発生し、やけどした	0	0	0	0	0	1	1
総計	18	7	8	3	0	2	38

表1: 事件事象別の事故発生件数(件)